

なぜ、「残したい！大阪とその周辺の自然」をまとめたのか？

大阪自然環境保全協会 自然保護・調査研究部会 木村 進

自然保護・調査研究部会では、2020年度の事業計画に、「自然環境保全上重要な地域の選定」を行うことを提案し、「良好な自然環境が保たれ生物多様性の保全上も重要な地域」を各地域グループの協力により抽出・選定してリストアップするとともに、関係自治体の都市計画や開発計画を調査・研究し、これらの自然が開発によって失われる前に把握できるように努力する。」とした。会報誌「都市と自然」で、協会の地域グループや会員の皆さんへ、「残したい自然」の提案を呼びかけ、2020年10-11月号より提案された地域の自然の紹介文の連載を始めた。同じような企画が約30年前にも取り組まれ、「都市と自然」200号記念号(1992年11月号)には「こだわりの自然200選」の特集があり、これらは最終的にはポスターにまとめられた。また、200号には12地点の自然がピックアップして紹介されているが、これらのリストにあげられた自然のなかには現在では失われてしまったものも多い。

連載を始めるにあたり、木村がその目的を以下のようにまとめているので、紹介しておく。「大阪では近年の開発で急激に自然が失われ、全国の中でも自然に乏しい府県の一つとなった。それでも、まだ各地に貴重な自然が残されており、保全協会ではそれらを守るために、様々な活動に取り組んでいる。最近の事例では堺市の南部丘陵における残土処理計画に対して、堺市がその地域を「特別保全緑地」に指定することで、貴重な自然を保全することができるようになったが、これは地元の「鉢ヶ峯の自然を守る会」を中心とした長年にわたる地道な活動の成果である。一方、豊中市で長く放置され、自然が復活し、キツネの繁殖活動も確認された自衛隊跡地では、老人施設建設が強行され、地元住民の働きかけで、ごく一部の緑地が残されることとなったが、都市内に残された貴重な自然が失われてしまった。また、廃棄物の埋め立てで形成された人工島である夢洲にも多様な生物が定着し、希少な在来生物に加え、多くの外来生物を含む生態系が形成されているが、万博やIRの計画が進められており、この夢洲の自然をどう保全するかも大きな課題である。そこで、自然保護調査研究部では、まずは、協会会員の皆様から「残したい自然」を提案していただき、現在の大阪に残されている豊かな自然のリストを作成したいと考えている。大阪府や各自治体、さらには環境省や関西広域連合などでもそれぞれの基準で、重要な自然の選定を行っているが、保全協会では市民の立場で、生物多様性の高い貴重な自然から、皆様の散歩コースのような身近な場所にある残された自然なども含めて、皆さんが「残したい！」と思われる自然をリストアップしたい。そして、それらの自然を開発しようとする計画をできるだけ早くキャッチするしくみを確立し、これらの自然を後世に引き継ぐ取組みを強めたいと考えている。そのために、多くの皆様からあげられた自然を、「都市と自然」の誌上で紹介して、共有していきたい(2020年9月)。」

この企画を約4年半にわたって継続し、協会の各地域グループや会員の皆さんからの紹介文を連載してきた。後半には会員の提案だけではなく、大阪とその周辺の重要な自然をピックアップして協会理事や大阪周辺の自然に詳しい専門家にも依頼して連載を続けた。その結果、2025年2-3月号でちょうど50地点となった。残すべき自然はまだまだあるが、これでいったん連載を打ち切り、協会ホームページで紹介することとした。今後もしもご提案を受けて充実させていきたい。

2025年12月1日